

## (2) 上小地域 ～ 人・歴史・風土が紡ぐ豊かな上小農業 ～

### 重点戦略1：多様な担い手による魅力ある農業の展開

目標指標	H22 基準年	H26		H29 目標年
		計画	実績	
40歳未満の新規就農者数（単年度）	10人	20人	20人	20人
企業的農業経営体への発展を促進する経営体数	414経営体	447経営体	430経営体	471経営体
担い手への農地利用集積率	30%	37%	31.5%	43%

#### <施策の取組状況>

- 支援チームの巡回指導等による、人・農地プランの作成と実現に向けた取組への支援
  - 人・農地プランの実現に向け、支援チームの巡回指導等を実施し、プランの作成地区ごとに重点的に取り組む内容の整理を中心に取り組みました（チーム会議2回、市町村指導会9回）。
  - 上田市武石地域を人・農地プランの重点地域に位置付けるとともに、農村活力創出支援事業を導入するなど、地域主体による農業生産活動や交流活動の取組を支援しました。
- 里親制度やJA子会社による新規就農者の育成及び農業後継者等の円滑な経営継承支援
  - 関係機関と連携した新規就農相談等の実施の他、里親制度を活用し、管内に就農を希望する7名の研修生を受け入れ、指導しました。
- 企業的農業経営体をめざす農業者の確保と資質向上及び円滑な経営継承等の促進
  - 市町村等関係機関で連携を図り、認定農業者の確保及び経営改善に対して支援しました。
- 農地の利用集積による規模拡大の促進
  - 醸造用ぶどうに係る生産団地基盤整備計画を樹立するとともに、農地利用集積を推進するための説明会等を開催しました。
  - 農地中間管理事業の事務受託体制を整えるとともに、上田市塩田地区等で地域集積協力金の制度を説明するなど、農地の利用集積を推進しました。
- 定年帰農者や女性グループ等多様な担い手の組織化、技術力向上等への支援
  - 昨年の農村女性セミナー修了生12名が農村女性ネットワーク上小に加入するなど組織強化を図るとともに、10月女性農業者講座を開設し、技術向上と仲間づくりに努めました。

#### <今後の展開方向>

- 市町村推進組織と連携した地域農業の課題の絞り込み及び解決に向けた支援
- 関係機関の連携による担い手育成体制の強化と新規就農者の育成
- 農地中間管理機構等を活用した経営規模拡大の支援
- 青年就農給付金制度等を活用した新規就農者の個別指導の強化による自立支援
- 醸造用ぶどうに係る生産団地基盤整備計画及び農地利用集積の推進

### 重点戦略2：実需者ニーズに対応した米・畜産物等の供給

目標指標	H22 基準年	H26		H29 目標年
		計画	実績	
環境にやさしい米づくりの面積	231ha	268ha	226ha	324ha
麦・大豆・そばのオリジナル新品種普及面積	3ha	36ha	35ha	75ha
農業用水の安定供給が確保される面積	1,130ha	0ha	0ha	1,600ha

### <施策の取組状況>

- 需要に対応した米生産、原産地呼称管理制度認定米、信州の環境にやさしい農産物認証等の取組面積拡大
  - 雑草イネ防除対策に係る講習会を8地区で開催するなど防除対策の普及に重点的に取り組み、東御市東部、上田市上田東、川西地区で大幅に発生が減少しました。
  - 県オリジナル品種「風さやか」リーフレットを増刷し、面積拡大と消費拡大に努めました。
- 実需者ニーズに対応した麦・大豆・そばの県オリジナル新品種の生産振興
  - 大豆「すずほまれ」、そば「タチアカネ」など、県オリジナル新品種の栽培技術指導による品質向上と生産拡大を図りました。
- 付加価値の高い畜産物の生産振興
  - 「信州プレミアム牛戦略的生産対策事業」等を活用し、信州プレミアム牛肉の生産拡大に取り組みました。
- 高病原性鳥インフルエンザ・口蹄疫等の防疫体制の強化
  - 防疫体制を強化するため、鳥インフルエンザを想定し、車両消毒を想定した防疫演習を実施しました。
- 農業水利施設の機能維持と計画的な整備
  - 神川左岸地区以下5地区において県営かんがい排水事業による基幹水利施設を整備しました。



【防疫演習】

### <今後の展開方向>

- 県オリジナル品種「風さやか」の生産拡大に併せた信州の環境にやさしい農産物認証等の取組面積の拡大
- 関係機関と連携した防疫演習の開催等、高病原性鳥インフルエンザ等の防疫体制の強化
- 県営かんがい排水事業による基幹的農業水利施設の整備（2市、5施設）

## 重点戦略3：立地条件を活かした高品質な農産物生産

目標指標	H22 基準年	H26		H29 目標年
		計画	実績	
果樹オリジナル主要品種の栽培面積	56ha	75ha	71ha	129ha
りんご新しい化栽培面積	0.2ha	3ha	4.4ha	10ha
販売額1億円以上の野菜品目数	6品目	6品目	6品目	7品目
りんどうの切花本数	58万本	40万本	37万本	135万本
信州の環境にやさしい農産物認証面積	182ha	227ha	209ha	280ha
生産者GAPに取組むJA生産部会・農産物直売所数	5件	9件	8件	18件

### <施策の取組状況>

- 新しい化栽培の普及による「りんご3兄弟」などオリジナル品種の生産拡大
  - わい化栽培園、フェザー苗木育成ほの巡回検討会を実施したほか、ほ場カルテを作成するなど、良質なフェザー苗木の供給体制を総合的に検討しました。
- 生産の意向確認、農地利用調整等による樹園地継承の仕組みづくり
  - 「需要に応える園芸産地育成事業」を活用し、園地継承の仕組みづくりを支援したほか、上田東地域において、継承システムを使い2haが継承されました。
- ナガノパープル、シャインマスカット等の無核品種への転換促進
  - 「無核ぶどう品種検討会」を開催し、無核品種への誘導したほか、「シャインマスカット」の被覆袋の調査を実施し、無核品種への転換促進を図りました。

- **かん水施設等によるぶどう裂果防止技術の普及**
  - 栽培技術講習会の開催（4か所）及び新規参入者への個別指導を実施し、裂果防止技術の普及を図るとともに、次年度に向けてかん水施設等のモデル園の設置等を推進しました。
- **地域特産果樹としてのくるみの生産拡大**
  - コウモリガを対象として農薬の登録拡大に向けた農薬試験を実施しました。
- **標高差を活かしたレタスの長期出荷体制の確立**
  - 県営中山間総合整備事業で整備した上田市殿城地区で、標高差を活かしたレタスの長期出荷を推進した他、入植ほ場を整備しました。
- **施設化、かん水施設導入、茎枯病対策等によるアスパラガスの生産拡大**
  - 「アスパラガス生産振興プロジェクト」と連携し、上田東地区等において、一年生苗 10,000 本を導入するとともに、茎枯病対策のモデルほ場を管内 5 か所に設置する等、生産力強化に取り組みました。
- **ブロッコリー・ズッキーニ等の生産拡大による新たな野菜産地づくり**
  - よだくぼ南部地域を中心としたブロッコリーの野菜産地づくりに取り組み、10ha 以上の生産拡大が実現しました。
- **優良品種「青嵐丸」等の導入によるりんどうの生産拡大**
  - 「需要に応える園芸産地育成事業」等を活用し、りんどう「青嵐丸」等の導入に取り組み約 50 a の新植・改植を推進しました。
- **優良苗や栽培施設整備等によるトルコギキョウ抑制作型の生産拡大**
  - 「長花 34 号」、「長花交 37 号」の開花特性調査を行うとともに、栽培講習会を通じて 7 月定植の抑制作型の作付けを呼び掛けました。
- **エコファーマー、信州の環境にやさしい農産物認証の取得促進**
  - 東御市等の農産物直売所組合員等を対象とした現地説明会を開催し、制度の普及を図りました。
- **ワーキンググループによる JA 生産部会 農産物直売所における生産者 GAP への取組の普及促進**
  - 上田市丸子地域の農産物直売所をモデルに安全安心研修会等を開催し、生産者 GAP への取り組みの普及促進を図りました（研修会 8 回）。



【りんどう「青嵐丸」】

### 今後の展開方向>

- フェザー苗木育成ほ巡回検討による新しい化栽培の普及・促進
- 東御市等における人・農地プランに立脚した果樹園地継承の仕組みづくりの確立
- 施設化、かん水施設導入、茎枯病対策等によるアスパラガスの生産拡大
- 製氷機の導入等によるブロッコリーの品質安定と生産拡大
- りんどうの土壌管理の見直し等、適正な株養成による生産力の維持・強化
- 農産物直売所における生産者 GAP の推進

### 重点戦略 4：農村資源の活用による地域の活性化

目標指標	H22 基準年	H26		H29 目標年
		計画	実績	
常設農産物直売所の売上高（13 か所）	11 億円	12 億円	15.4 億円	15 億円
都市農村交流人口	26,235 人	31,700 人	31,922 人	32,000 人
六次産業化法に基づく総合化事業計画の認定数	0 件	7 件	10 件	7 件

### <施策の取組状況>

- **栽培講習会等による農産物直売所の魅力向上**
  - 昨年「地域発元気づくり支援金」を活用して整備した農産物直売所の映像配信施設を活用したビデオソフトを製作するとともに、常設農産物研修会を開催するなど、組織の活性化を支援しました。（研修会 3 回）

- 地元の観光事業者、給食事業者等と結びつけた「おいしい信州ふード（風土）」の利用拡大
  - 「おいしい信州ふード（風土）」について、地域の特徴を活かすための戦略づくりを推進するとともに、昨年情報誌「うえだnavi」に掲載した地域食材情報を取りまとめた冊子を作成しました。
- 農産物直売所、ワイナリー等の地域資源を活用した交流人口の増大
  - 地産地消推進イベントに協賛するとともに、日本そばサミット、産直サミットの開催に携わるなど、交流人口の増大に取り組みました。
- 地域資源を活用した加工品の品質向上・販路拡大支援等による6次産業化の推進
  - 6次産業化総合事業化計画の策定に係る相談活動を実施するとともに、6次産業化ネットワーク活動交付金を活用し、ワイナリー1カ所を整備しました。
- 実需者ニーズを的確に把握した契約取引を行う産地づくりの推進
  - 長野地方事務所等と連携し、東北信うまいものまるごと大商談会 2014 を開催し、上小地域からも10農場等が参加するなど、実需者とのマッチングを支援しました。

### <今後の展開方向>

- 商工観光事業者等との連携による「おいしい信州ふード（風土）」の推進
- 6次産業化を希望する農業者等への総合化事業計画策定支援
- 輸出用米の普及に向けた多収穫品種の選定等、実需者ニーズを的確に把握した契約取引を行う産地づくりの推進

## 重点戦略5：安全・安心で住みやすい農村環境づくり

目標指標	H22 基準年	H26		H29 目標年
		計画	実績	
農地や農業用水の保全に取り組む面積	1,966ha	2,427ha	3,421ha	2,370ha
野生鳥獣侵入防止柵の設置延長	63km	195km	222km	220km
遊休農地の再生・活用面積(単年度)	29ha	50ha	44 ha	50ha

### <施策の取組状況>

- 集落機能の維持・発展のための共同活動の推進
  - 多面的機能支払交付金を活用し、農地や農業用水の維持・保全に取り組む組織を支援しました。
- 農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進
  - 基幹的な水利施設を管理する土地改良区に対して情報提供や啓発活動を実施しました。
- 侵入防止柵の設置など地域ぐるみの総合的な鳥獣被害防止対策の実施
  - 侵入防止柵の設置など地域ぐるみの総合的な鳥獣被害防止対策を推進するため、集落や捕獲隊等による捕獲体制を整備したほか、侵入防止柵の設置を積極的に推進しました。
- 広域支援チームによる遊休農地解消に向けた支援体制確立
  - 耕作放棄地再生利用緊急対策等を活用し、44haの遊休荒廃地を解消しました。
- 地域の重要な水源であるため池の整備・防災対策
  - 上田市塩田平地域における県営ため池等整備事業による防災・減災対策を推進しました。
  - 震災対策農業水利施設整備事業によるため池施設の点検及び耐震性調査を実施しました。

### <今後の展開方向>

- 多面的機能支払交付金を活用した農地や農業用水の維持・保全に取り組む組織の支援
- 基幹的な水利施設を管理する土地改良区に対する情報提供や啓発活動の実施
- 侵入防止柵の設置など地域ぐるみの総合的な鳥獣被害防止対策の実施
- 耕作放棄地再生利用緊急対策等による遊休農地の解消促進
- 農村地域防災減災事業を活用した、ため池施設の点検及び耐震性調査の実施